



標高差 0m～1,400mのまち

せいよし 愛媛県西予市

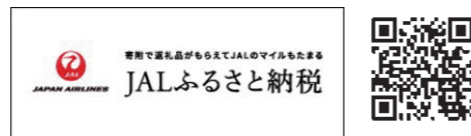
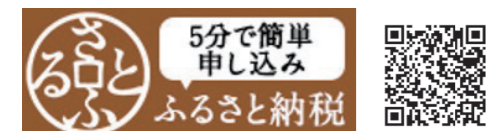
四国の西南部に位置する西予市の特徴は、海拔0m～1,400mの標高差を舞台とした自然環境。地形・地質の多様性に恵まれ、柑橘をはじめ魚介類・果実・乳製品・肉類など多くの特産品があります。また、豊かな自然と人々の生活文化や歴史が評価され市内全域が「四国西予ジオパーク」として認定されました。ゆったりと流れる癒しの時間と、人々の温もりがここにはあります。



「月刊旅色」で西予市が特集されました。



以下のふるさと納税サイトにアクセス！
応援よろしくお願いたします



日本初の産科女医 楠本イネを育んだ町

第10回 せいよし 愛媛県西予市 おイネ賞事業

令和4年 12月10日(土) 会場 西予市宇和文化会館 大ホール 13:30～

主催／西予市・(一社)愛媛県医師会
後援／(公社)日本医師会・愛媛大学医学部・(一社)西予市医師会



「読書をするイネ」
大洲市立博物館所蔵

第1部

第10回 西予市おイネ賞事業表彰式

1. 開会
2. 主催者あいさつ
3. 来賓紹介
4. 西予市おイネ賞受賞者発表
5. 審査機関紹介及び審査総評
6. 表彰状贈呈
7. 受賞者あいさつ
8. 閉会

第2部

講演会

「日本人とがん～コロナで減った がん患者」

講師 中川 恵一

(東京大学大学院医学系研究科 総合放射線腫瘍学講座 特任教授)

主催者あいさつ



西予市長
菅家 一夫

第10回西予市お伊ネ賞事業の開催にあたりご挨拶申し上げます。
平成24年度から始まりましたお伊ネ賞事業は、シーボルトの娘、楠本イネの偉業を継承し、その志を受け継ぐ全国の女性医師を奨励するものとして今年度で第10回を迎えます。コロナの拡大により、会の開催は3年ぶりとなります。
主催・後援としてご協力ご支援いただきました関係機関をはじめ、多くの皆様にご参加いただき、開催できますことを心から厚くお礼申し上げます。
本会が、お伊ネ賞を受賞された方々を称え、多くの皆様が健康で生活していくことの大切さについて考え、前を向いて進んでいくきっかけづくりになりますようお願いしております。



一般社団法人
愛媛県医師会
会長
村上 博

西予市卯之町は、愛媛県でも最も文化的に成熟した街のひとつです。江戸時代末期、シーボルトの娘である楠本イネは、卯之町で医学研修を行い偉大な足跡を遺しました。「お伊ネ賞」は西予市が女性医師の活躍を顕彰する事業です。子育てや介護をしながら、ご自身のご病気と仕事を両立させながら、さまざまな困難を乗り越えて地域医療に大きな貢献をされている女性医師の活躍に光をあてています。社会が広く女性医師を受け入れ、現代のテーマでもある働き方改革、ワークライフバランスのモデルとして、この「西予市お伊ネ賞事業」を位置づけたいと考えます。
コロナの拡大で人と人との接点が失われ社会の分断も進んでしまいました。コロナは人々の心にも大きなダメージを遺しています。健康であること長寿であること、街づくりに関して医療が果たすべき役割があると思っています。困難を乗り越え「もっと元気にもっと素敵に西予市で」みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

趣旨

シーボルトの娘で日本初の産科女医「楠本イネ」を育んだまちとして、医学研究や医療活動に躍進する女性を表彰し、奨励することで西予市の全国発信とともにお伊ネのまちづくりで地域の活性化を図る。

西予市 お伊ネ賞 事業

目的

- ・女性医師を奨励し、社会における女性活躍進めつなげる。
- ・活躍が期待できる地域における女性医師を奨励する。
- ・これから芽が出ようとする地域における女子医学生を奨励する。

講演会

「日本人とがん～コロナで減ったがん患者」

講師 中川 恵一

(東京大学大学院医学系研究科 総合放射線腫瘍学講座 特任教授)



講師プロフィール

昭和60年、東京大学医学部医学科卒業後、東京大学医学部放射線医学教室入局。スイス Paul Sherrer Institute へ客員研究員として留学後、東京大学医学部放射線医学教室助手、専任講師、准教授・放射線治療部門長を歴任。令和3年度より、現職。
この間、平成15年から26年まで、東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部長を兼任。患者/一般向けの啓蒙活動にも力を入れており、福島第一原発後は、飯舘村など福島支援も積極的に行っている。
日経新聞で「がん社会を診る」を毎週連載中。
がんの練習帳、がんのひみつ、最強最高のがん知識、コロナとがん、など、著作も多数

第10回西予市お伊ネ賞受賞者



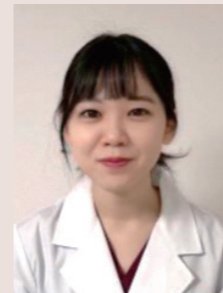
全国奨励賞

医師・弁護士
太田秀哉法律事務所
秦 奈峰子氏



地域奨励賞

医療法人良仁会
大三島中央病院
越智 伸子氏



医学生奨励賞

愛媛大学
医学部5年
山根 未久氏

経歴

医師資格と弁護士資格のダブルライセンスを有し、臨床現場で活躍されている。
平成10年九州大学医学部を卒業後、産科医師として活躍し、その後産婦人科専門医認定を取得。平成24年に早稲田大学大学院法務研究科を修了。弁護士登録され法律事務所に入所。近年増加している産科医事紛争において産科医療保障制度原因分析委員会委員として、医療側法律家側の双方の観点から分析され大きな成果をあげている。

経歴

平成11年聖マリアンナ医科大学を卒業後、愛媛大学附属病院、済生会今治病院を経て、平成17年より大三島中央病院に勤務している。
父祖の代から大三島で3代にわたり、地域医療を担い、今治市域の中でも島しょ部は人口減少が急速に進み、厳しい医療環境の中、常に患者に寄り添った診療を心がけ、住民を守る地域医療を絶やさないよう日々診療に取り組んでいる。
在宅当番医の輪番担当や学校保健の推進に貢献している。

経歴

現在臨床実習などの勉学に励んでいる。
学業ではトップクラスの成績を収め地域医療に関しても入学1年生時から医科学研究として、現場の医療を熱心に学んでいる。
サークル活動として山岳部に所属し、自然を愛すとともに、渉外係として諸先輩がたとの円滑な連絡・交渉の担当もしている。
愛媛の医療を担う女性医師の1人として将来の活躍が期待される。

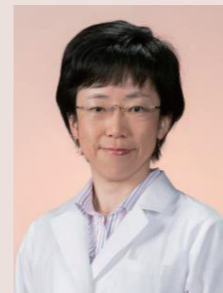
第9回西予市お伊ネ賞受賞者

※内容については、令和3年受賞決定時の状況で掲載



全国奨励賞

東京大学医学部附属病院
放射線科
前田恵理子氏
(令和4年2月ご逝去)



地域奨励賞

松山赤十字病院
近藤しおり氏



医学生奨励賞

愛媛大学
医学部5年
森 愛絵氏

経歴

平成15年に東京大学医学部を卒業後、東京大学附属病院放射線科で研修。翌平成16年には東京大学総長賞を受賞。東大放射線科においては、指導教官として研究を指導し、数々の英文論文をセカンドオピニオンとしても発表している。
健康診断で自ら自分のがんを発見し、度重なる再発と闘っている。出産・子育ての経験を自身の研究分野を確立する重要な契機とし、女性医師・研究者として活躍されている。

経歴

宇和島市出身。平成5年九州大学医学部卒業、平成16年九州大学医学部医学博士修了。卒業後、九州大学附属病院、新小倉病院を経て、平成19年松山赤十字病院に勤務、翌平成20年に部長に着任。研修指導医としても後進の育成にあたるほか、糖尿病に関する学会発表や講演会にて活躍されている。また愛媛県糖尿病協会理事や愛媛県糖尿病対策推進会議副会長としても活躍されている。

経歴

現在愛媛大学医学部の5年生で臨床学修などの勉学に励んでいる。学業成績は優秀で入学から現在にいたる。解剖学の授業では、学生のチューター数名の1人に選ばれ、後輩の解剖実習の教育・指導にも取り組んでいる。また部活動は弓道部に在籍し、副部長として部の統括役を務めるとともに後輩の指導を熱心に行っている。なお2020年発行の愛媛医学に「愛媛県における膵癌診療の実態」の 주제로共同研究者の1人として論文が掲載されている。